

千秀だより

横浜市立千秀小学校

7月号

平成28年(2016)7月1日



「辛抱する。」ということ

校長 市川 幸男

梅雨空の下、雨に洗われた紫陽花の花が、目を和ませてくれます。また、畑のキュウリやトマト等の野菜も時を得たかのように、すくすくと育っています。一方、今週から始まった水泳の学習はというと、毎日のように降り続く雨のため、思うように実施できないです。空をにらんで恨みの一言をこぼしてしまうのは、仕方ないことなのでしょう。この梅雨が明ける頃には、児童達の待ち望んでいる夏休みがやって参ります。四月に始まって4ヶ月、全校遠足や運動会、そして140周年に向けての数々の取り組みなど保護者や地域の皆様に、感謝しても仕切れないくらいのご支援を頂きました。紙面をお借りしまして心より御礼申し上げます。

さて、表題の辛抱について書かせていただきます。「今の子ども達は辛抱すること、我慢することができない。」とよく言われます。確かに自分が子どもの頃と比べると、子どもに限らず、大人も含めて今の社会全般にそういった姿が多く見られます。物や情報があふれ、欲しい物は直ぐに手に入れることのできる現代社会を、かつてのゆったりと時間の流れる頃と比較しても仕方ないことかもしれません。それでも「辛抱」することで得られる力もあると、私は考えたいのです。この辛抱に似た言葉に「我慢」があります。「我慢」は例えば、仕事やつきあいなどの中で、自分がしたくないことや嫌なことをこらえることであり、受動的なもの。一方「辛抱」は、自分が志したものを実現するための努力に伴うつらさに耐えるという能動的なものであると私は理解しています。だから、人に強いる時は「我慢なさい」、自分で主体的に言い聞かせるときは「辛抱しよう」と使い分けています。子ども達には、「我慢をしなくても良いのだよ。」と常々いっておりますが、できれば、自分の望むことがなかなか達成できないとき、我慢するのではなく、それを自分の目標に置き換え、達成できるまで、あるいは解決できるまで努力を重ね、頑張っていこうとする方向に向けていかれるような学校にしていきたいと考えます。

そんなことを考えていると先日、まちである光景を見かけました。交差点で、数人の人ともに信号待ちをしていると、その中の一人が車の来ないことをいいことに、赤信号を無視して横断しはじめました。するとそれを見ていた、幾人かが後を追いはじめ、遂にはそこで待っていた大部分の人が動き出しました。そんな中、高校生らしい男の子が一人だけ、じっと信号が変わるのを待っていました。そして10秒後、信号が変わると悠々と歩を進め始めました。私は興味がわき、その男の子をしばらく見ていました。すると実にすがすがしい顔で胸を張って歩いて行くではありませんか。わずか10秒前後の時間にあくせくせず、周りの動きに惑わされず、自分の正しいと思うところに従って行動したその姿と、満足感あふれる顔に、雨が降り続け、水泳の授業ができないからといって、天につばするような自分を恥じ入ったこと頻りです。

先にも述べましたが、もう2週間余りすると40日に及ぶ長い夏休みがやってきます。休みの期間、いろいろな出会いや誘惑に出会う機会があると思います。そんな中、時には、自分で判断し、辛抱していかれるような生活を送ってくれることを期待しています。